

編集後記

沈着症は、筆者が昔から興味を持ってきた分野である。皮膚に沈着するタンパクはアミロイドとムチンが代表的で、これらは皮膚にprimaryな病変を形成する場合もあれば、他の疾患に伴いsecondaryにみられる場合もある。ところで、沈着症に対して丘疹という言葉を用いる皮膚科医がいるが、結節(小さければ小結節)が正しいと考える。理由は炎症細胞によってできたものではないからである。しかし一つ問題があり、papular mucinosisという病名があり、すでに市民権を得ているので今後もこのままだろう。ついでに言うと、Bowenoid papulosisという病名も、腫瘍なのでpapulosisはあまり好ましくない。

本号では、アミロイド沈着、ムチン沈着、石灰沈着を取り上げた。全身性アミロイドーシスは、他科との連携が求められる疾患でもある。頻度は少ないが、皮膚症状から全身性アミロイドーシスを診断し、皮膚科のほうから循環器内科や血

液内科に紹介状を書くと、皮膚科の値打ちが上がり他科から一目置かれるかもしれない。「解説」ではほかに、皮膚限局性アミロイドーシスや、アミロイドタンパクの最新の分析法について執筆いただいた。疾患例では、皮膚アミロイドーシスの実際例、ムチノーシスと全身疾患(膠原病、甲状腺疾患、肥満)との関連、膠原病に伴う石灰沈着、腫瘍にみられる石灰化や骨化について解説いただいた。「話題」では、結節性皮膚アミロイドーシスとシェーグレン症候群/B細胞リンパ腫、また皮膚症状は少ないものの老人性アミロイドーシスについて解説いただいた。後者は皮膚科にランダム生検依頼がくる疾患の一つでもある。

本号をよくお読みいただき、診療の幅が広がることに期待したい。ご執筆いただいた諸先生に感謝する。

(山本俊幸)

編集委員(五十音順)

阿部理一郎／氏家英之／奥山隆平／門野岳史／神人正寿／菅谷 誠／多田弥生／長谷川 稔／藤本 学(委員長)／本田哲也／森田明理／山本俊幸

皮膚科 第10巻 第3号

編集 皮膚科編集委員会

発行 科学評論社

代表者 内田 豊 義

発行日 2026年9月28日

〒101-8531 東京都千代田区神田司町 2-10-15

表紙デザイン：都築 陽

Tel (03) 3252-7741 (代表)

Fax (03) 3252-5952 (専用)

Published by KAGAKU-HYORONSHA Co., Ltd., 2-10-15 Kanda-Tsukasamachi, Chiyoda-ku, Tokyo ©2026, Printed in JAPAN
本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は当社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp, URL: <https://www.jcopy.or.jp/>)の許諾を得てください。